

社団法人日本超音波医学会第 81 回学術集会を終えて

会長 別府慎太郎

(大阪大学大学院 医学系研究科名誉教授)

本学会第 81 回学術集会を 2008 年 5 月 23 日から 25 日までの 3 日間、神戸市ポートアイランド内の国際展示場にて開催しました(写真-1)。小生の所属致します大阪大学は、超音波ドブラ法の臨床応用に道を拓いた仁村泰治、金子仁郎、里村茂夫、血流ドブラ信号が血球からの反射であることを突き止めた加藤金正、電子走査型超音波断層装置の開発に尽力した松尾裕英を擁した学府です。世界の超音波医学の源泉とも言えます。その一員としてこの歴史ある学術集会を主催させて頂けたことは、望外の喜び、この上もない名誉と存じます。本学会は、昭和 37 年に第 1 回学術集会が開催され、間もなく 50 周年を迎えますが、阪大在職者が本学会の大会長を務めるのは、第 20 回の加藤金正先生以来、何と 37 年ぶりです。(但し、阪大出身者で大会長になられた方は数多く、仁村泰治(国立循環器病センター)、横井 浩(日生病院)、北村次男(大阪成人病センター)、松尾裕英(香川医大)、北畠 颯(北大)、千田彰一(香川医大)、田中幸子(大阪成人病センター)が名を列ねておられます。その間、超音波技術、超音波検査法、超音波医学はいやと言うほど進歩してきました。技術的には、リアルタイム 3D 法や、心臓壁運動を自動追認出来るスペックトラッキング法、組織の硬さを診断出来るエラストグラフィ、さらには超音波造影法などが開発されてきましたが、それでもなおその歩みを止めずにいます。このような研究・臨床の総本山とも言える本学会を恙なく開催するのは並大抵のことではないと覚悟していました。

準備段階から学会本番までを振り返って、それぞれのポイントを述べていきます。

2 年前に大会長に指名されてまず行うのは、会場の予約でした。地元大阪の「国際会議場」をあつたところ、2 年先にサミットが日本で開催されるので 4 月から 7 月まで予約が受けられないとのこと(今年 7 月に洞爺湖で行われたのですが、当時は東京、京都、大阪の主要会議場、ホテルは全て予約差止めでした)、神戸国際展示場に決めました。



写真-1

前々回の大会会長である田中幸子先生に準備から開催までのタイムスケジュールを頂き、それを参考に 1 年半前に実行委員会を立ち上げました。千田理事長に顧問を、田中先生にアドバイザーになって頂き、領域毎にコアメンバーを依頼しました。(消化器：田中幸子、循環器：増山 理、産婦人科：千葉善英、体表：小西 豊、腎泌尿器：秋山隆弘、血管：松尾 汎、基礎：近藤 隆、工学：千原国宏、技師：増田喜一、企業：四方裕之、ライブセッション：林 英宰、大崎住夫)(さらにその下に実行委員の先生方がおられますがここでは省略致します)

さて、多領域の多業種の参加者の方々に参加の意義を見つけて貰えるような学術集会にするにはどうすれば良いか。本学会の毎回の学会長が腐心するところです。超音波医学が研究的範疇の止まらず、広い範囲での臨床、即ち医療に含まれると考え、メインテーマを「医学と医療における超音波」としましたが、どうも平凡で気に入りませんでした。最初のポスターや HP を立ち上げてから思いついたのが、「あなたの知らない超音波がここにある」でした。この方が小生の意図がハッキリすると思っています。

学術集会として一般演題以外のプログラムをどうするかは大きな問題です。シンポジウム、パネル、特別講演などがあるのですが、1 年半前の第 1 回コアメンバー会議で、「領域横断的企画の提案」と「領域毎のテーマとプログラミングの提示」をお願いし



写真-2

ました。数多くのご提案を頂き、その中から、各専門領域に共通したテーマであり、かつ各専門領域の専門家が一堂に会して討論する日本超音波医学会ならではの企画として相応しいものを選びました。「成長と老化：臓器によってこう違う」「メタボリックシンドロームを超音波で考える」「弾性の考え方と診断法：各領域における見方」「最新の超音波事情」「検診ではここを見逃すな」「超音波による治療」「深部静脈血栓症の診断と治療」「超音波検査と安全対策」です。座長の先生方、演者の先生方の御陰で、この横断的セッションでは、多領域の専門家が異なる立場に立って意見を述べる面白みが、実に上手く発揮出来たのではないかと各位からご評価を頂きました。参加された皆さんが大変熱心に聞き入っておられた様子を、小生は感激して見ておりました（写真-2）。

各専門領域に特化したシンポジウム、パネルは、それぞれのコアメンバーの先生方にご一任しました。何よりも嬉しかったのは、コアメンバーの先生方が、まるで御自分が学会を担当するが如く、熱心にテーマや座長を検討選択して頂いたことで、専門領域のシンポなどの成功は自ずと決まっておりました。ありがとうございました。

特別講演を何にするかは、考え所でした。ある夜テレビで盲目の方が「杖」を使わずに歩いておられる場面を見ました。何と自分が「舌打ち」し、その反射音を聞いて障害物がないかを判断するという「エコー・ロケーション」と言うものをその時初めて知りました。これは面白い。「音」と言ってもいろんな使い方があると再認識しました。さらにその解説をされているのが、何と科研審査の際にお隣におられた東大の伊福部先生ではありませんか。「これだ」

と思って、特別講演の共通テーマを「音はこんなに面白い」とし、音に関係するお仕事をされている工学系の先生方をずらりと並べました。伊福部先生はじめ、渡辺先生、遠藤先生、杉本先生、蜂屋先生の先生方から、超音波メガネの話、海洋音響学の話、地底探査の話など、身障者に対する福祉からインディージョーンズの世界まで興味深いお話を伺うことができました。全てが大変面白く、学術集会会長が特別講演の内容を決めても良いという会長冥利に尽きる企画であったと思っています。

海外からの招請講演をどなたにするかも懸案事項でした。コアメンバーからご推薦頂く先生方は、領域が違えば、ただの人。申し訳ないが存じ上げないのです。思案を続けました。アメリカの学会に参加した際、アメリカ留学中の宮崎知奈美先生と世間話をしていて、「うちの研究室ではね、・・・」と言う話が面白く、「それならその話、日本でしてよ」と即決してしまいました。コアメンバーの先生方にお諮りし、ご賛同を頂いて、各領域での留学生を推薦頂きました。予想通り、新進気鋭の先生方の留学体験話と最新研究テーマの講演は面白く聞くことが出来ました。会場の皆に刺激を与えてくれたのです。留学している先生方にとっては、留学先での仕事を評価して貰えて良かったと言ってくれました。また、帰国後の就職先が気になるところですが、某先生にはオファーが幾つかあったそうです。

今回の学術集会では、従来は陰の協力者・黒衣であった企業を何とか表に出そうと思いました。企業は確かに学会資金のスポンサーではありますが、学会の重要な一員です。それ故、主要超音波関連企業の代表の方にコアメンバーとして企画の段階から参加頂きました。企業が提案する企画を期待したのです。特別枠を作っても良いと思っていました。従来企業側が参画する企画は、機器展示とランチョンないしイーブニングセミナーです。これらは主催者側にとっては重要不可欠な企画ですが、逆に企業側にとっては大きな出費です。新たな企画をと持ち掛けでも、企業側としてはどうしても腰が引けてしまうようでした。特別な提案がないまま、3年前の学術集会で菅原会長が発案された「ニューフロンティアテクノロジー」、2年前の田中会長が企画された「ライブ・バーチャルライブ」を取り入れました。これらに加えて、同じ技術を持つ企業が同じ場所でその特長を発表する「わが社のここを見て下さい」を企



写真 - 3

画しました。「ポータブルエコー」「3D エコー」「スペックトラッキング」の三つをテーマにしましたが、それぞれ基本的な考え方は司会者が基調講演を行い、それに引き続き各企業の違いを企業の方に発表願いました。まとめて一度に説明を受けると個々の違いが浮き彫りにされました。この企画はすこぶる好評でしたので、今後とも是非続けて欲しいと思います。全体として「企業は魅せます」というタイトルで、機器展示場に併設する会場で行いました。「ライブ」は、林 英宰先生と大崎往夫先生にテーマと人選を全てお願いしました。「ライブ」経験不足の講師も含まれていて多少不安と聞かされていましたが、蓋を開ければその心配は全くありませんでした。「ライブ」の講演が始まって間もなく林 英宰先生が携帯電話で「先生、いっぱい来てますよ」「消化器の先生はメチャクチャ熱心ですわ」と興奮気味に報告をくれました（写真-3）。実はその時小生もその会場にいて、「よっしゃ」と思っていたのです。機器展示場での企画は全て好評で、機器展示会場が例年以上に人が多かったようです（写真-4）。なお、企業との協調体制を作るという意味で、企業の代表の方を会長招宴にお招きしました。この企画は初めてのことでしたが、それに応えて頂けたのは大変嬉しいことでした。

「会長講演」は、教室の者たちから「義務です」と言われ、やってしまいました。題名は、「私を愛した超音波」としました。何故「私が・・・」ではなく、「私を・・・」なのか、公演前に大勢の方々に聞かれましたが、公演後は「なるほどね」と納得して貰いました。皆様の貴重な時間を頂きました。ありがとうございました。

「ランチョンセミナー」は、一般参加者にとっては、

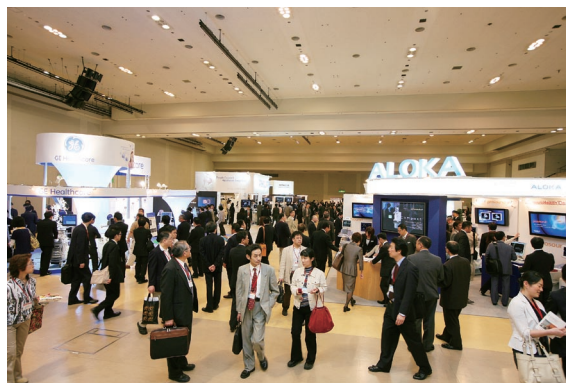


写真 - 4

わざわざレストランを探さなくても良い企画ですが、企業側にとっては弁当代の負担が大きく、それにも拘わらず、弁当が足らなければ企業イメージが下がることを心配して多めに準備するため大抵は余ってしまいます。何人来るかの「読み」は大変難しく、企業側はリスク回避のために小さめの部屋（つまり用意する弁当が少なくても良い）を希望します。ところで、実際ランチョンセミナーに参加された方々、今回の弁当は如何でしたか。通常は弁当と言えば「幕の内」です。それを今回は、「どんぶり」や「サンドイッチ」にしました。暖かくて美味しかったです。実は、昨年末に大阪で「国際造影超音波シンポジウム」をお引き受けした時に、ランチョンセミナーに「どんぶり」をトライしているのです。また、今回のどんぶりの内容も試食会を予め大学で行って検討していたのです。これは、当教室の石蔵とコングレの伊藤さんとケータリング会社のチームワークの成果です。さらには本部預かり分を準備し、不足の所へ分配する方式を採りましたので、通例の幕の内弁当よりもずっと安い予算ででき、弁当代を負担する企業には大変喜ばれました。イーブニングセミナーを引き受けてくれたアロカさんも、このやり方に乗ってしまい、「蛸メシ」と地ビールを提供していて、お祭りのようでした。

しかし、何と言っても大変なのは、会場の部屋割りでした。我々循環器の人間にとって、馴染みのない領域の馴染みのないセッションにどの程度の方が来られるのかは、全く予想出来ないのです。自分の専門外の領域での参加者数など見当も付かないので、前々回の田中幸子先生の大阪大会、前回の鄭忠和先生の鹿児島大会の時に、実際の会場の入り具合をチェックしました。特に鹿児島ではコアメンバーの



写真 - 5



写真 - 6

先生方に、それぞれの専門領域での会場の入り具合をみて頂き、それを基に大まかな部屋割りを予め設定しました。一般演題応募数は370題を越えましたが、悪いことに、会場の「神戸国際展示場」は展示には適していても、会議には適当な大きさの部屋が少ないのです。この調整は当教室の浅沼が行いました。時間帯と領域毎の予想参加者数、部屋の収容人数から部屋割りをシミュレーションし、最大公約数的に決めてくれました。結果、循環器や産婦人科が最も小さな部屋になり（大会長が循環器なのに、ということだとお叱りを受けました）、また学会としては大きなイベントである奨励賞発表の会場が小さくなりましたが、どの部屋も極端な過不足がなく、安堵しました。岡井新理事長には、「部屋は小さい方が熱気が有って良いんだよ」と大変好意的にご理解頂きました。会場のセッティングでは、如何にスライドを見易くするかも重要です。事前に平面図の上でスクリーンの大きさと位置を決めていましたが、前日の会場点検でどうも気に入らなくて、メイン会場、ライブ会場、教育講演会場にはサイドスクリーンを加えて全体として3面のスクリーンにし（写真-5）、会場によっては両サイドや廊下にプラズマモニターを設置しました。メイン会場は元来展示場としてのライティング設備しかなく、講演中のライティングが不満でしたので、サイドに補助照明を入れ間接照明の雰囲気を出しました。これらの変更は全て効果的でしたが、コングレが急な変更要求にも対応してくれ助かりました。ポスター会場も、発表が行われているのが良く分かるように、ポスター板を斜めに配置する工夫を致しました（写真-6）。

今回のもう一つの新たな試みは公開市民講座でした。超音波医学会が培ってきた知識・技術の社会還



写真 - 7

元と一般社会での超音波医学の認知度向上を考え、「乳ガン検診と超音波」「超音波と遊ぼう」「ママと赤ちゃん、そしてパパのための超音波セミナー」の三つのテーマを立てました。この企画は、開催地である神戸市に大変賛同して頂き、共同で開催することになりました。しかし、問題は如何に多くの市民の方に御参加頂けるかです。「乳ガン」に関しては、企画の藤本先生のご紹介で、落語家の笑福亭松喬さんにご協力頂きました。「ママパパ」は、千葉先生をはじめ関西の産婦人科関係の先生方が開業医レベルまでの宣伝をして頂きました。また、学術集会用とは別の公開講座用のポスターを2種類作成し、神戸ポートライナーの駅や電車内に掲示しました（写真-7）。（気付かれませんでしたでしょうか？）公開講座用のチラシは合計4千枚を近隣家庭に神戸市が配布してくれました。神戸市のメルマガや神戸市広報でも宣伝し、神戸市役所で新聞記者会見も行いました。ラジオ局にも依頼し、早朝のパーソナリティーラジオ番組の電話インタビューを受けて宣伝に努めました。結果、200名程度の参加を頂きました。こちらの流した汗の割には参加者数が少ないなと思いまし

たが、市民講座の参加者数とはこんなものだそうです。この企画を今後を行うには、宣伝方法を考える必要があります。講演内容自体は一般の方にも分かり易いように工夫されていました。松喬さんの洒落な話しぶりは「乳ガン」という堅い話を軟らかくしてくれましたし、「パパママセミナー」は出産に係わる現在の諸問題を数名の演者の先生方が上手くまとめて頂きました。平井先生に企画頂いた「超音波と遊ぼう」はこちらの期待以上に平井先生の教室員の方々が頑張りました。当日の学会本部にはビニール袋に入った金魚が運び込まれ、フルーツゼリーが山積みになり、一体何事かという雰囲気でしたが、全て超音波で見るとどう見える、3Dで見るとどう見えるというデモンストレーションのためでした。聴衆よりも関係者の方が楽しんでいるようでした。いずれにしろ、公開講座の担当の先生方、ご苦労様でした。専門医制度委員会で進めている「あなたの町の超音波専門医」コーナーも会場に設置し、「あの病院に専門の先生が居たはるんやね」ということをインターネットで見られることを市民の方々に広報できました。

盛りだくさんの企画でしたので、参加者の皆さんは大変だったのではないかと思います。その中でホッ



写真 - 8

として頂いたのが懇親会でしょう。今回は立食パーティでしたが、料理皿はセンターかサイドにまとめて置かずにテーブル毎に配分し、そこで自由にお取り頂きました。お料理を取るのに並ばなくて良かったと思います。さらに社会人チアリーダーたちが場を盛り上げてくれました（写真-8）。お楽しみ頂けたでしょうか。

大会後には、「大成功でしたね」「面白かった」というお褒めの言葉を頂きました。会員諸氏が「参加して良かった」と思って頂いたのなら、小生は大満足です。ありがとうございました。